

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年 6月 30日

兵庫県知事 殿

提出者

住 所 西宮市池田町12-20

氏 名 (株)新井組 代表取締役 梶原 卓
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0798-26-8449

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 新井組
事業場の所在地	兵庫県西宮市池田町12-20
計画期間	平成26年4月1日から平成27年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	06 総合建設業
②事業の規模	17,400百万円(平成25年)
③従業員数	213人(平成25年12月末)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	・事業場で発生した産業廃棄物は、全て中間処理、再生処理業者に委託する。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図) ・別紙管理体制図のとおり	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	
①現状	【前年度（ 年度）実績】
	産業廃棄物の種類 別紙のとおり
	排 出 量 t t
	(これまでに実施した取組) ・実寸発注を優先 ・ユニット化工法の選択優先 ・梱包の簡略化
②計画	【目標】
	産業廃棄物の種類 別紙のとおり
	排 出 量 t t
	(今後実施する予定の取組) ・現状の取組を継続
産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・がれき（コンクリート塊、アスコン）、木くず、石膏ボード 金属くず、ダンボール 石綿含有建材
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・同上

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) —		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	別紙のとおり	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) —		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) —		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を取り決めている		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	別紙のとおり	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・できるだけ再利用率の高い業者を選定する ・可能な限り優良認定処理業者を使う		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

建設廃棄物に係る管理規定

1. 廃棄物管理体制

1.1 社内体制の整備

本社、作業所における関係者の責務と役割を明確にする。(組織図 1-1)

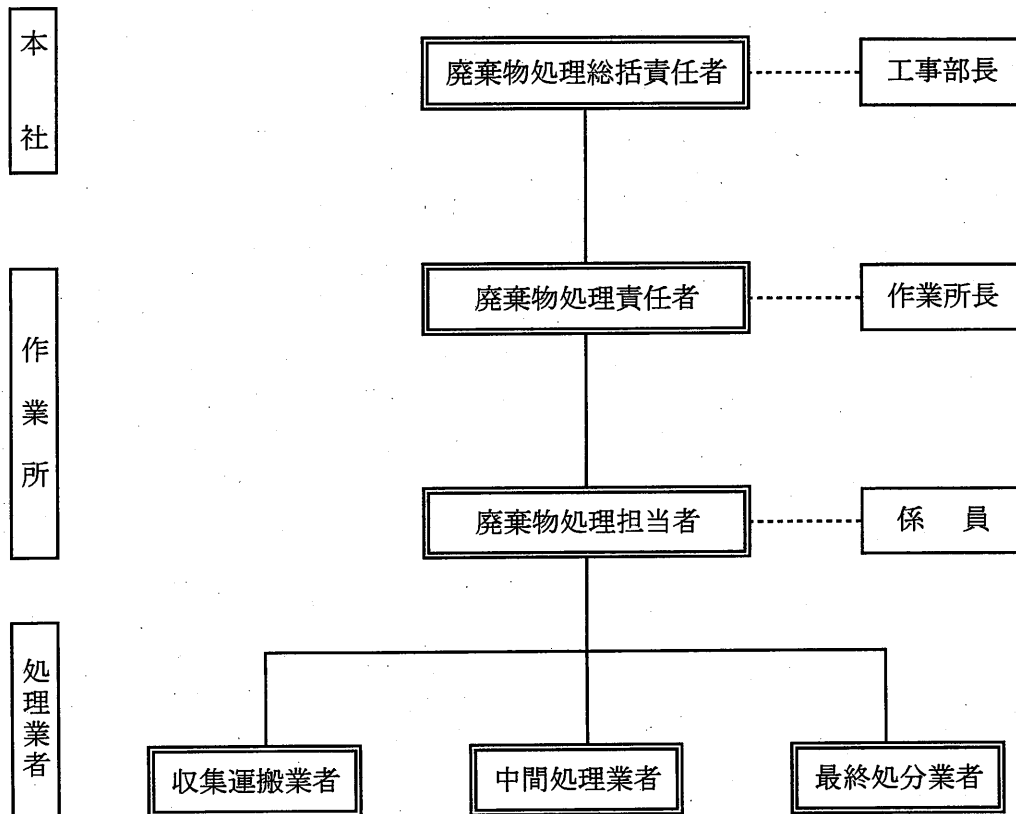


図 1-1 組織図

1.1.1 本社担当部は廃棄物の処理方針を定め、長期的、計画的な処理の管理に努める。
このため、廃棄物処理総括責任者を定め、以下の業務を行う。

- ①管理組織の整備
- ②基本方針の決定
- ③処理マニュアルの作成
- ④職員、下請業者の教育、指導と啓発
- ⑤法令の改正、行政庁の指導内容等の周知
- ⑥建設廃棄物の発生量の把握、処理実績の集計および記録

2. 作業所における処理計画

- 2.1 廃棄物処理責任者は建設廃棄物の減量化を図るため、ならびに建設廃棄物を適正に処理するために発注者の仕様書等に基づき建設廃棄物の保管、収集、運搬、中間処理および最終処分に関する具体的な処理計画を作成する。
- 2.2 処理計画の作成にあたっては次の点に留意する。
 - ①発注者および処理予定業者と事前に打合わせを行う。
 - ②施工方法を検討し、減量化を計画する。
 - ③建設廃棄物の発生量を予測する。
 - ④適切な処理方法を選定する。

3. 委託処理

3.1 委託契約

- 3.1.1 建設廃棄物の処理を委託する場合には、収集、運搬業者および処分業者から許可証の提示を求めるとともに、以下の項目について確認するとともに、実地調査や写真等によって最終処分場の状況(残存容量等)を確認する。
 - ①業の区分
 - ②産業廃棄物の種類
 - ③処理施設の能力
 - ④許可の条件および期限
 - ⑤発生地と処分地の都道府県知事等の許可
- 3.1.2 建設廃棄物の処理を委託する場合には、廃棄物処理法に定める委託基準に従って、事前に委託契約を行う。
- 3.1.3 収集、運搬業者および処分業者とそれぞれ委託契約を行う。
- 3.1.4 建設廃棄物の処分が完了した場合に、処分業者が排出事業者に処分が完了した旨を速やかに報告させる。

3.2 委託の実施

- 3.2.1 建設廃棄物の委託に際しては、処理計画に基づいた適正な処理が行われるよう適切な措置を講じる。
- 3.2.2 運搬車両ごとにマニフェスト(積荷目録)を発行し、廃棄物の種類、性状、処分方法、処分先および取扱い上の注意すべき事項等を収集、運搬業者および処分業者に対し、明確に指示する。
- 3.2.3 処分業者による処分についてマニフェストにより確認するとともに、必要に応じ現地調査等により確認する。

6.6 特別管理型産業廃棄物

- ① 飛散性アスベスト(非飛散性のものは除く)は、解体に先立って除去しなければならない。
作業するに当たっては、各関係法令に準拠した作業計画を立て、申請を完了したのちにかかること。
- ② 産廃処理業者選定に当たっては、収集・処理を含め許可証を確認し、最終処分先を確認すること。
- ③ PCBを含有する電気機器等は、解体に先立って撤去し、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法平成13年法律第65号」により適切に保管できるように措置する。

6.7 その他配慮事項

- ① 事前措置
 - ・有害物質を含む建設資材などは、再使用・再資源化が可能な建設資材と混合しないよう解体に先立ち除去する。
- ② 解体工事時
 - ・再資源化が困難な建設資材廃棄物を最終処分する場合には、安定型処分品目については管理型処分品目が混入しないように分別した上で、安定型最終処分し、管理型処分場で処分する量を減らす。
 - ・改修工事など発生材が少量な場合でも建設資材毎に分別し、小口収集等を検討する。
- ③ 新築工事時
 - ・施工計画にあたっては、端材の発生が抑制される施工方法の採用に努める。
 - ・加工は可能な限り工場で行い、現場での端材の発生を抑える。
 - ・再使用できるものを再使用でくる状態にする施工方法の採用に努める。
 - ・材料の梱包に関しては、無梱包での搬入や梱包材の簡素化に努める。
 - ・適用するJISで認められている場合は、再生資源で製造された材料の使用に努める。

ステップ	都道府県政令市 廃棄物担当部局	発注者	元請業者		下請業者	処理業者	書類、帳票他	留意点
			本社	作業所				
企画	産業廃棄物 処理計画	○	処理方針 計画				産業廃棄物 処理規定 産業廃棄物 処理の手引	
			情報収集、 提供			○		
工事受注		処理方法		確認			現場説明書 仕様書類 設計図書	現場説明時に廃棄物の処理方法等につき不明確な点がある時は発注者に確認し、追加仕様書等に明記してもらうよう心がけること。
工事計画	回答	承認	相談	種類の判定			建設廃棄物 処理計画書 実行予算書 設計図書 仕様書類	残土か？ 一般廃棄物か？ 産業廃棄物か？ 産業廃棄物なら、その種類は？ 処理業者選定に当たっての確認事項 (1)産業廃棄物処理業許可証 (2)最終(中間)処分場 (3)運搬経路
			打合、相談	建設廃棄物処理計画書 実行予算の作成	業者選定	○	処理方法の検討	
契約				委託契約		委託契約	産業廃棄物処理 委託契約書	
処理		報告		マニフェスト		伝票処理	マニフェスト	処理業者の選定、委託契約は作業所において、行う。
			指導	処分状況の確認 指導		○	○	処分場の写真記録 建設廃棄物の処理 状況点検表
記録報告			記録の保存	記録、整理	○	○	A、B2、D、E票 文書保存要領	
評価	報告		処理実績集計	処理実績、報告			建設廃棄物処理都道府県政令市より排出業者に対し、廃棄物の	処理計画を定め報告を求めることもある。
			業者指導	処理業者の 処理状況報告		○	○	

別添 1-2図 建設廃棄物の標準処理フロー

----- フィードバック 流れを示す
○ — ○ 関係を示す

